

# 2016年3月期 決算説明会

日本通運株式会社

I. 経営状況	P. 1-
II. 外部環境の変化	P. 11
III. 経営計画の総括	P. 12
IV. 2017年3月期の業績予想	P. 13-
V. 配当の状況	P. 20

2016年5月10日

# I. 経営状況



## A. 2016年3月期決算の概要

### 1) 概要（連結）

（単位：億円、％）

	2016/3期 実績 ①	2015/3期 実績 ②	増減額 (前年比) ③=①-②	増減率 (前年比) ④=③÷②×100	通期予想 (5月8日発表) ⑤	差額 ⑥=①-⑤	率 ⑦=⑥÷⑤ ×100
売上高	19,091	19,249	△158	△0.8	20,000	△908	△4.5
営業利益	547	508	39	7.8	540	7	1.4
経常利益	623	595	28	4.8	630	△6	△1.0
親会社株主に 帰属する 当期純利益	356	263	92	35.2	340	16	4.9

（億円未満切捨て）

### 2) 連結経営指標

（前期実績）

・売上高営業利益率	2.9%	(2.6%)
・売上高経常利益率	3.3%	(3.1%)
・ROE	6.8%	(5.1%)
・ROA	2.4%	(1.9%)

### ◇事業環境に関する認識と確認（経済環境）

良好な企業収益にけん引され、賃金や雇用環境の改善が期待されたものの、

中国をはじめとした海外経済の減速や地政学的リスクの高まりに加え、年明け以降には円高・株安など景気の下押し要因が顕在化するなか、依然として不透明な状況で推移。

### ◇事業環境に関する認識と確認（物流業界の状況）

国内貨物は経済の潮目の変化により、企業の生産に弱さが見られ出荷が伸び悩むなど、緩慢な荷動きとなり、

国際貨物は輸出・輸入ともにマイナス基調が続き、アジア向けを中心に貨物が減少するなど、総じて低調に推移。

# I. 経営状況



## B. 財政状態

(単位：億円)

	2016/3期	2015/3期	増減
総資産	14,849	14,536	313
自己資本	5,222	5,319	△96

## C. キャッシュ・フローの実績

(単位：億円)

	2016/3期 実績 ①	2015/3期 実績 ②	増減額 (前年比) ③=①-②
営業活動によるキャッシュ・フロー (A)	788	745	43
投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	△1,228	△223	△1,004
フリー・キャッシュ・フロー (A+B)	△440	521	△961
財務活動によるキャッシュ・フロー (C)	439	△336	775
現金及び現金同等物に係る換算差額 (D)	△28	43	△72
現金及び現金同等物の増減額 (A+B+C+D)	△29	228	△258
現金及び現金同等物の期首残高	1,489	1,259	230
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	-	1	△1
現金及び現金同等物の期末残高	1,460	1,489	△29

Copyright © 2016 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2016年3月期決算説明会資料

2

### ◇財政状態

総資産は、のれんの増加などにより、対前年度末313億円、2.2%増加。

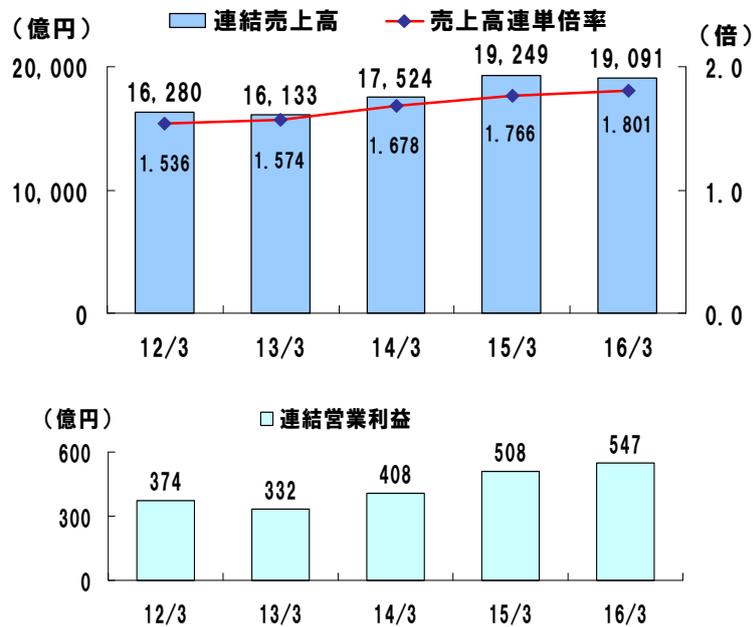
### ◇キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物の2016年3月末残高が、対前年度末29億円減少し、1,460億円。

# I. 経営状況



## D. 直近5年間の売上高、営業利益の推移



Copyright © 2016 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2016年3月期決算説明会資料

3

### ◇売上高の推移

対前年158億円、0.8%減少。

「航空」セグメントにおいて、前年にあった米国西海岸の港湾混雑の影響による自動車関連特需の反動減があったことや、  
「販売」セグメントにおける、石油類の販売単価下落などが要因。

### ◇営業利益の推移

対前年39億円、7.8%増加。

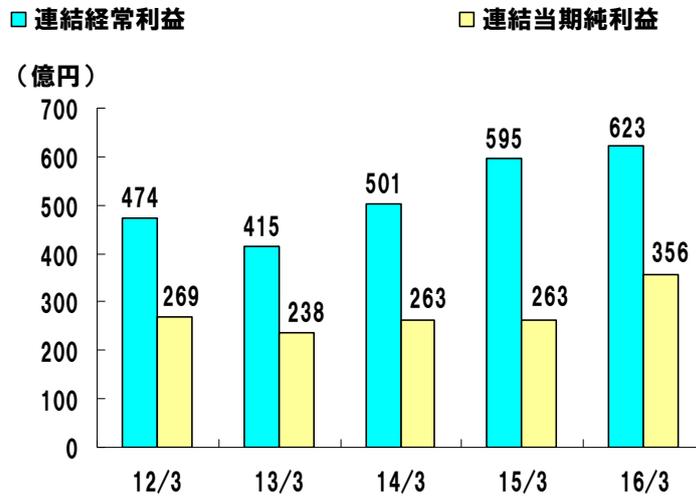
料金改定の効果や燃油費単価下落の影響により、「複合事業」セグメントが大きく改善。

「重量品建設」セグメントと「米州」セグメントが伸長。

# I. 経営状況



## E. 直近5年間の経常利益と当期純利益の推移



### ◇経常利益の推移

対前年28億円、4.8%増加。

### ◇当期純利益の推移

対前年92億円、35.2%増加。

特別利益は、投資有価証券売却益が減少したことにより、32億円減少。  
特別損失は、前年にのれんの減損損失、「米国集団訴訟関連引当金」を計上していたことなどにより、106億円減少。

# I. 経営状況



## F. セグメント別状況

### 1) 複合事業

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比		業績予想(1/29発表)対比				
		16/3期	15/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	7,365	7,423	△57	△0.8	7,432	99.1	△66
	セグメント利益	224	182	42	23.6	219	102.6	5
4Q単四半期	売上高	1,854	1,875	△21	△1.1	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	78	68	10	15.0	4.2(3.6)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 輸送需要の高まりが期待された3月において、鉄道取扱い、トラック輸送、倉庫の荷動きが、総じて低調に推移</li> <li>・ 引越をはじめ、オペレーション効率改善の成果や、燃油費単価下落により、増益</li> </ul>						

### 2) 警備輸送

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比		業績予想(1/29発表)対比				
		16/3期	15/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	538	554	△15	△2.9	556	96.8	△17
	セグメント利益	15	8	6	76.5	14	107.8	1
4Q単四半期	売上高	132	138	△5	△4.2	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	4	2	1	68.5	3.2(1.8)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一部の不採算業務から撤退したことにより、減収</li> <li>・ 利益率が改善している状況や、燃油費単価下落により、増益</li> </ul>						

※以下、セグメント毎の概況は、第4四半期単四半期の内容

#### ◇複合事業・・・減収、増益

年度末における輸送需要の高まりが期待された3月において、品目による濃淡はあったものの、鉄道取扱い、トラック輸送、倉庫の荷動きは総じて低調に推移。

法人営業の強化に取り組んだ引越をはじめとして、オペレーション効率の改善に努めた成果や、燃油費単価下落の影響が継続し、増益。

#### ◇警備輸送・・・減収、増益

昨年4月以降、一部の不採算業務から撤退したことにより売上げは減少したものの、利益率が改善している状況や燃油費単価下落の影響が継続し、増益。

# I. 経営状況



## F. セグメント別状況

### 3) 重量品建設

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比		業績予想(1/29発表)対比				
		16/3期	15/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	513	468	45	9.6	489	105.1	24
	セグメント利益	36	21	15	70.9	30	121.7	6
4Q単四半期	売上高	110	111	△0	△0.4	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	12	4	7	186.9	11.0 ( 3.8 )		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内で、重電関連の取扱いが伸び悩み、前年並みの売上げ</li> <li>海外プラント工場の利益率向上や、国内案件の追加工事の発生により、増益</li> </ul>						

※以下、セグメント毎の概況は、第4四半期単四半期の内容

◇重量品建設・・・減収、増益

国内において、重電関連の取扱いが伸び悩んだ結果、ほぼ前年並みの売上げ。

ベトナムでの大型プラント工事における利益率の向上や、国内案件での追加工事の発生などにより、増益。

# I. 経営状況



## F. セグメント別状況

### 4) 航空

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(1/29発表)対比		
		16/3期	15/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	1,825	2,107	△282	△13.4	1,957	93.3	△131
	セグメント利益	73	101	△27	△27.4	69	106.6	4
4Q単四半期	売上高	450	685	△234	△34.3	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	24	55	△30	△55.0	5.5(8.0)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年の特需の反動や、アジア向けの電子・電機関連の荷動きが低迷により、日本発輸出貨物の取扱い重量は、前年対比で大幅なマイナスとなり、減収</li> <li>輸入についても、自動車関連の取扱い減少により、減収</li> </ul>						

### 5) 海運

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(1/29発表)対比		
		16/3期	15/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	1,182	1,188	△6	△0.5	1,228	96.3	△45
	セグメント利益	61	49	12	24.6	59	102.5	1
4Q単四半期	売上高	279	292	△13	△4.7	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	13	9	3	36.3	4.7(3.3)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>設備輸送関連の輸出が減少する状況が継続し、減収</li> <li>大型設備輸送案件の利益率が向上し、増益</li> </ul>						

※以下、セグメント毎の概況は、第4四半期単四半期の内容

#### ◇航空・・・減収、減益

前年にあった米州向けの自動車関連特需の反動や、アジア向けの電子・電機関連の荷動きが低迷するなど、

日本発輸出貨物の取扱い重量は、大幅なマイナスで推移。

燃油サーチャージ下落も影響し、大幅減収。

輸入についても、自動車関連の取扱い減少などで、件数は前年を下回り、減収。

国内貨物は、前年にあったスポットの反動減の影響により、減収。

#### ◇海運・・・減収、増益

設備輸送関連の輸出が減少する状況が継続し、減収。

輸入は、アパレル・雑貨関連の取扱いが増加したものの、

青果関連が振るわなかったことなどから、減収。

商戦期の海外引越も、輸出入ともに前年の売上げには及ばず。

内航は、燃油費単価下落に伴う収受額の減少などが影響し、減収。

大型設備輸送案件の利益率向上により、増益。

# I. 経営状況



## F. セグメント別状況

### 6) 米州

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(1/29発表)対比			
		16/3期	15/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	946	791	155	19.6	982	96.4	△35
	セグメント利益	50	34	16	49.5	50	100.4	0
4Q単四半期	売上高	232	219	13	6.2	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	10	6	3	54.7	4.3(3.0)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地通貨ベースにおいても、増収、増益</li> <li>・地域全体で、海運・輸入フォワーディングとトラック輸送が売上げを伸長</li> </ul>						

### 7) 欧州

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(1/29発表)対比			
		16/3期	15/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	845	836	9	1.2	850	99.5	△4
	セグメント利益	15	23	△8	△34.9	15	101.3	0
4Q単四半期	売上高	227	236	△9	△4.0	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	5	5	△0	△4.7	2.4(2.4)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地通貨ベースにおいては、増収、増益</li> <li>・地域全体で、海運・輸入フォワーディングと倉庫配送業務が売上げを伸長</li> </ul>						

※以下、セグメント毎の概況は、第4四半期単四半期の内容  
海外会社の第4四半期は、10-12月期

#### ◇米州・・・増収、増益

為替の影響を除いた、現地通貨ベースでも、増収、増益。

地域全体においては、海運輸入フォワーディングとトラック輸送が売上げを伸長。

米国において、自動車関連の海運・輸入フォワーディングの取扱いが伸長したほか、米国内のトラック輸送も堅調に推移。

メキシコにおいても、自動車関連の米国向けトラック輸送や海運・輸入フォワーディングが、引き続き好調を維持。

#### ◇欧州・・・減収、減益

為替の影響を除いた、現地通貨ベースでは、増収、増益。

地域全体では、海運・輸入フォワーディングと倉庫配送業務が売上げを伸長。

英国では、アパレル・雑貨関連の海運・輸入フォワーディングが好調を維持し、ドイツ、オランダにおいては、倉庫配送業務が堅調に推移。

# I. 経営状況



## F. セグメント別状況

### 8) 東アジア

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(1/29発表)対比			
		16/3期	15/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	1,150	1,013	137	13.6	1,188	96.9	△37
	セグメント利益	16	19	△2	△11.8	17	98.2	△0
4Q単四半期	売上高	282	279	2	1.0	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	4	4	0	8.9	1.6(1.5)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現地通貨ベースにおいては、減収、増益</li> <li>・ 地域全体では、航空・輸出フォワーディングと海運・輸出フォワーディングの荷動きが低迷</li> <li>・ 中国における自動車関連のトラック輸送、倉庫配送業務の堅調な推移により、増益</li> </ul>						

### 9) 南アジア・オセアニア

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(1/29発表)対比			
		16/3期	15/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	702	646	56	8.7	788	89.1	△85
	セグメント利益	15	9	6	68.5	16	92.8	△1
4Q単四半期	売上高	164	191	△27	△14.4	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	4	△1	5	-	2.7(△0.7)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現地通貨ベースにおいては、減収、増益</li> <li>・ 地域全体では、航空・輸出フォワーディングの減少と、前年の重機建設関連の反動により、減収</li> <li>・ 利用費の抑制や、倉庫配送業務の改善により、増益</li> </ul>						

※以下、セグメント毎の概況は、第4四半期単四半期の内容  
海外会社の第4四半期は、10-12月期

#### ◇東アジア・・・増収、増益

為替の影響を除いた、現地通貨ベースでは、減収、増益。

地域全体では、航空・輸出フォワーディングと海運・輸出フォワーディングの売上げが減少。

中国における自動車関連のトラック輸送、倉庫配送業務の堅調な推移により、増益。

#### ◇南アジア・オセアニア・・・減収、増益

為替の影響を除いた、現地通貨ベースでも、減収、増益。

地域全体では、航空・輸出フォワーディングと重機建設の売上げが減少。

タイでは、前年にあった重機建設関連の大型プロジェクトの反動減が大きく影響。

タイにおける航空利用費の抑制やフィリピン、マレーシアでの倉庫配送業務の改善効果により、増益。

# I. 経営状況



## F. セグメント別状況

### 10) 販売

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(1/29発表)対比			
		16/3期	15/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	3,673	4,201	△528	△12.6	4,115	89.3	△441
	セグメント利益	60	64	△3	△5.3	65	93.2	△4
4Q単四半期	売上高	880	988	△108	△10.9	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	14	18	△3	△18.4	1.7 ( 1.8 )		
	概況	・ 石油類の販売単価下落により、減収						

### 11) その他

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(1/29発表)対比			
		16/3期	15/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	1,736	1,436	300	20.9	1,760	98.7	△23
	セグメント利益	27	26	1	3.9	27	100.6	0
4Q単四半期	売上高	472	452	19	4.4	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	4	8	△3	△40.5	1.0 ( 1.8 )		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第3四半期末から連結子会社となったワンビシアークイブズ社が、売上げの増加に寄与</li> <li>・ 日通不動産における、前年スポットの反動減により、減益</li> </ul>						

※以下、セグメント毎の概況は、第4四半期単四半期の内容

#### ◇販売・・・減収、減益

日通商事において、石油類の販売単価下落の影響を大きく受け、減収。

#### ◇その他・・・増収、減益

ワンビシアークイブズ社が、第3四半期末から連結子会社となり、売上げの増加に寄与。

日通不動産における、前年スポットの反動減により、減益。

## II. 外部環境の変化



### 増減要素

変動要素	連結（通期）	参考
<b>燃油費単価変動による影響</b>	<b>燃油</b> $\Delta 59.4$ 億円 （費用減）  ※4Q単四半期 $\Delta 9.6$ 億円 （費用減）	（前年同期） <b>軽油</b> : 85.26円/ℓ（110.55円） <b>ガソリン</b> : 120.54円/ℓ（144.40円） <b>船舶重油</b> : 42.52円/ℓ（66.47円）
<b>為替による影響</b>	<b>売上高</b> + 247.1 億円 <b>営業利益</b> + 8.2 億円  ※4Q単四半期 売上高 $\Delta 1.2$ 億円 営業利益    + 0.1 億円	年間平均為替レート（※）    （前年同期） <b>USD</b> : 121.05円（105.85円） <b>EUR</b> : 134.32円（140.42円） <b>HKD</b> : 15.62円（13.65円） <b>RMB</b> : 19.22円（17.19円）  第4四半期平均為替レート    （前年同期） <b>USD</b> : 121.50円（114.54円） <b>EUR</b> : 132.95円（143.07円） <b>HKD</b> : 15.68円（14.77円） <b>RMB</b> : 18.92円（18.62円）

（※）年間平均為替レートは参考値。決算では四半期平均レートを各現地通貨ベースの四半期実績に適用している。

### III. 経営計画の総括



#### 日通グループ経営計画 2015 -改革と躍進-

##### 日通グループ企業理念・ビジョン



数値目標	2016年3月期達成目標	2016年3月期実績
売上高	1兆8,000億円	1兆9,091億円
営業利益	540億円	547億円
当期純利益	340億円	356億円
総資産利益率(ROA)	2.5%	2.4%
国際関連事業売上高比率	40%	36.2%
国内複合事業営業利益率	3%	3.1%
CO2排出量	年平均1.0%以上の削減(*)	2013-2015年度平均削減率 3.9%(見込み)

(\*) 日通グループとして原単位で2010年3月期を基準

Copyright © 2016 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2016年3月期決算説明会資料

12

#### ◇国内複合事業営業利益率3%目標の結果

最終年度、売上高は伸び悩んだものの、外注費をはじめとした各種コストの削減に対する取組みが奏功。

#### ◇国際関連事業売上高比率40%目標の結果

航空・海運のフォーワーディングを強化するとともに、海外においては、特に南アジアをターゲットに定め、事業の拡大に鋭意努力したが、日本国内での売上げが、M&Aの影響などにより、当初想定した以上に伸長したこともあり、目標到達には及ばず。

## IV. 2017年3月期の業績予想



### A. 連結業績予想

(単位：億円、%)

	2017/3期予想			2016/3期実績			増減額 (増減率)		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	9,350	9,950	19,300	9,532	9,558	19,091	△182 (△1.9)	391 (4.1)	208 (1.1)
営業利益	235	335	570	231	316	547	3 (1.6)	18 (5.8)	22 (4.1)
経常利益	278	352	630	276	347	623	1 (0.5)	4 (1.3)	6 (1.0)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	165	195	360	152	204	356	12 (8.5)	△9 (△4.6)	3 (1.0)

#### ◇業績予想作成の前提となる経済環境

海外経済は、中国をはじめとした経済への減速懸念が根強く残るものの、先進国を中心に緩やかな回復を期待。

国内経済は、円高・株安による企業の景況感の悪化や消費者マインドの下触れなどにより、引き続き、不透明感の強い状況で推移すると予測。

#### ◇業績予想作成の前提となる物流業界の状況

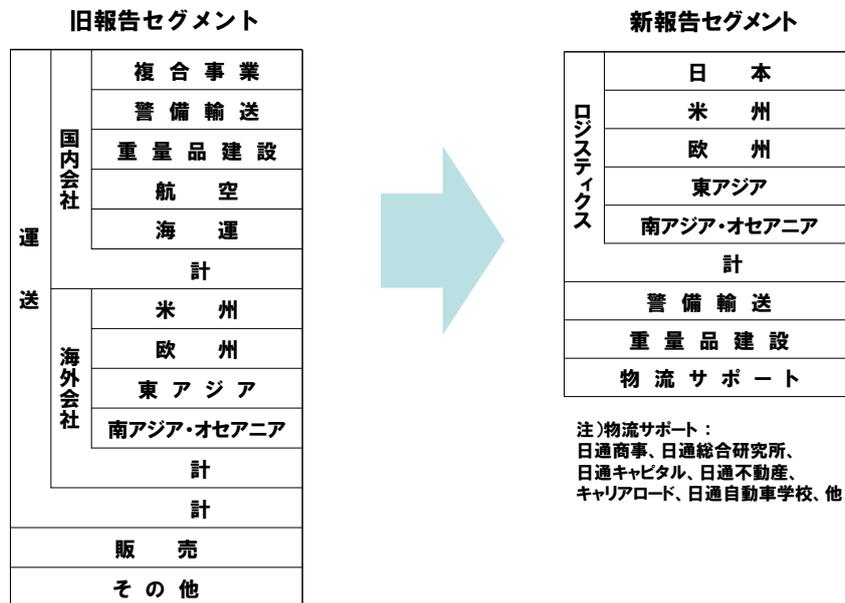
国際貨物では、欧米向け貨物の持ち直しによりプラス基調に転じるものの、中国経済減速の影響が払拭されず、緩やかな伸びに留まる見込み。

国内貨物は、個人消費の回復が限定的となることから、貨物量に大きな増加は見込めず、総じて低調に推移すると予測。

## IV. 2017年3月期の業績予想



### B. 新報告セグメント



新経営計画のスタートに伴い、新たな区分で開示。

## IV. 2017年3月期の業績予想



### C. セグメント別状況

#### 1) 日本

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	17/3期	16/3期	増減額	増減率				
売上高	11,885	11,583	301	2.6	・物量の大幅な増加が見込めないなか、一連の組織改正による効果の生み出しに取り組む			
セグメント利益	405	366	38	10.7				
利益率	3.4	3.2						
上・下半期	上半期				下半期			
	17/3期	16/3期	増減額	増減率	17/3期	16/3期	増減額	増減率
売上高	5,856	5,731	124	2.2	6,029	5,852	176	3.0
セグメント利益	161	143	17	12.4	244	222	21	9.5
利益率	2.7	2.5			4.0	3.8		

#### 2) 米州

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	17/3期	16/3期	増減額	増減率				
売上高	846	946	△100	△10.7	・米国、メキシコにおいて、自動車関連の海運・輸入フォーワーディング、トラック輸送の取扱いが、好調を維持するも、前年の特需の反動減が影響見込み			
セグメント利益	42	50	△8	△17.5				
利益率	5.0	5.4						
上・下半期	上半期				下半期			
	17/3期	16/3期	増減額	増減率	17/3期	16/3期	増減額	増減率
売上高	415	482	△67	△14.1	431	464	△33	△7.1
セグメント利益	20	27	△7	△26.8	22	23	△1	△6.6
利益率	4.8	5.7			5.1	5.1		

#### ◇日本・・・増収、増益

物量の大幅な増加が見込めないなか、一連の組織改正による効果の生み出しに取り組む。

陸海空の総合力を発揮できるワンストップ体制の構築による営業面での効果に加えて、管理面、オペレーション面においても更なる効率化に注力。

#### ◇米州・・・減収、減益

為替の想定を除いた、現地通貨ベースでも、減収、減益。

米国、メキシコにおいて、自動車関連の海運・輸入フォーワーディング、トラック輸送の取扱いが引き続き好調を維持するも、前年にあった特需の反動減は避けられない見込み。

## IV. 2017年3月期の業績予想



### C. セグメント別状況

#### 3) 欧州

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	17/3期	16/3期	増減額	増減率				
売上高	804	845	△41	△4.9	・ 地政学的リスクを抱えているものの、オランダにおける倉庫配送業務は、順調に売上げを伸長 ・ ロシアの改善も寄与する見込み			
セグメント利益	20	15	4	28.3				
利益率	2.5	1.8						
上・下半期	上半期				下半期			
	17/3期	16/3期	増減額	増減率	17/3期	16/3期	増減額	増減率
売上高	379	410	△31	△7.6	425	435	△10	△2.4
セグメント利益	8	6	1	14.4	12	8	3	39.6
利益率	2.1	1.7			2.8	2.0		

#### 4) 東アジア

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	17/3期	16/3期	増減額	増減率				
売上高	1,115	1,150	△35	△3.1	・ 自動車関連のミルクランの取扱いが、好調を維持する見込み			
セグメント利益	17	16	0	1.2				
利益率	1.5	1.5						
上・下半期	上半期				下半期			
	17/3期	16/3期	増減額	増減率	17/3期	16/3期	増減額	増減率
売上高	509	574	△65	△11.4	606	576	29	5.2
セグメント利益	6	5	0	3.2	11	10	0	0.2
利益率	1.2	1.0			1.8	1.9		

Copyright © 2016 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2016年3月期決算説明会資料

16

#### ◇欧州・・・減収、増益

為替の想定を除いた、現地通貨ベースでは、増収、増益。

欧州は、地政学的リスクを抱えているものの、オランダにおける倉庫配送業務の順調な売上げの伸長と、オペレーションの改善効果を見込む。

前年に不調だったロシアの改善も寄与する見込み。

#### ◇東アジア・・・減収、増益

為替の想定を除いた、現地通貨ベースでは、増収、増益。

中国経済の減速が最大のリスク要因であるが、自動車関連のミルクランの取扱いが好調を維持する見込み。

非日系企業への営業強化や、新たな陸路輸送ルートの構築など新規ビジネスの開発にも注力。

## IV. 2017年3月期の業績予想



### C. セグメント別状況

#### 5) 南アジア・オセアニア

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	17/3期	16/3期	増減額	増減率				
売上高	790	702	87	12.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロジスティクス業務における収益性の向上など、売上げの拡大に伴う、利益の確保に取り組む</li> <li>航空・海運フォワーディングの獲得にも注力</li> </ul>			
セグメント利益	21	15	5	33.9				
利益率	2.7	2.2						
上・下半期	上半期				下半期			
	17/3期	16/3期	増減額	増減率	17/3期	16/3期	増減額	増減率
売上高	367	367	△0	△0.3	423	334	88	26.5
セグメント利益	9	8	0	4.5	12	7	4	69.6
利益率	2.5	2.3			2.8	2.1		

#### 6) 警備輸送

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	17/3期	16/3期	増減額	増減率				
売上高	557	538	18	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャッシュ・ロジスティクスプラットフォームの構築による売上げの拡大に取り組む</li> <li>人に関わる各種コストの増加により、減益を見込む</li> </ul>			
セグメント利益	11	15	△4	△30.0				
利益率	2.0	2.9						
上・下半期	上半期				下半期			
	17/3期	16/3期	増減額	増減率	17/3期	16/3期	増減額	増減率
売上高	278	272	5	2.2	279	265	13	4.9
セグメント利益	4	7	△3	△45.5	7	8	△1	△16.4
利益率	1.4	2.7			2.5	3.1		

Copyright © 2016 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2016年3月期決算説明会資料

17

#### ◇南アジア・オセアニア・・・増収、増益

為替の想定を除いた、現地通貨ベースでも、増収、増益。

ロジスティクス業務における収益性の向上など、売上げの拡大に伴う利益の確保に取り組む。

ロジスティクス業務で囲い込んだお客様の航空・海運フォワーディングの獲得にも注力。

#### ◇警備輸送・・・増収、減益

キャッシュ・ロジスティクスプラットフォームの構築による売上げの拡大に取り組む。

社有戦力のみで業務を遂行しているため、

人に関わる各種コストの増加が想定されることから、減益を見込む。

## IV. 2017年3月期の業績予想



### C. セグメント別状況

#### 7) 重量品建設

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	17/3期	16/3期	増減額	増減率				
売上高	486	513	△27	△5.4	・ シャット・ダウン・メンテナンス工事の獲得に注力 ・ 海外の大型プラント工事がピークアウトする影響は避けられない見込み			
セグメント利益	29	36	△7	△21.4				
利益率	6.0	7.2						
上・下半期	上半期				下半期			
	17/3期	16/3期	増減額	増減率	17/3期	16/3期	増減額	増減率
売上高	259	275	△16	△5.9	227	238	△11	△4.9
セグメント利益	13	16	△3	△19.9	16	20	△4	△22.5
利益率	5.0	5.9			7.0	8.6		

#### 8) 物流サポート

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	17/3期	16/3期	増減額	増減率				
売上高	4,066	4,109	△43	△1.0	・ 石油類の販売単価下落の影響が、上半期までは継続する見込み			
セグメント利益	83	81	1	1.7				
利益率	2.0	2.0						
上・下半期	上半期				下半期			
	17/3期	16/3期	増減額	増減率	17/3期	16/3期	増減額	増減率
売上高	1,922	2,072	△150	△7.3	2,144	2,036	107	5.3
セグメント利益	41	40	0	1.5	42	41	0	1.9
利益率	2.1	1.9			2.0	2.0		

Copyright © 2016 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2016年3月期決算説明会資料

18

#### ◇重量品建設・・・減収、減益

国内では、シャット・ダウン・メンテナンス業務の獲得に注力するが、マレーシア、ベトナム、ロシアでの大型プラント工事がピークアウトする影響は避けられない見込み。

#### ◇物流サポート・・・減収、増益

石油類の販売単価下落の影響が上半期までは継続する見込みであり、利幅の確保に向けた取組みを強化。

## IV. 2017年3月期の業績予想



### D. 外部要因の前提

変動要素	連結業績への影響	前提条件
燃油費単価変動による影響	燃油費 $\Delta 28.7$ 億円 (費用減)	(前期年間平均) 軽油 : 74.61円/ℓ (85.26円) ガソリン : 104.48円/ℓ (120.54円) 船舶重油 : 28.69円/ℓ (42.52円) 使用量は前年と同量と想定
為替による影響	売上高 $\Delta 322.1$ 億円 営業利益 $\Delta 10.1$ 億円	(前期年間平均 <sup>(※)</sup> ) USD : 111.20円 (121.05円) EUR : 125.90円 (134.32円) HKD : 14.40円 (15.62円) RMB : 17.20円 (19.22円)

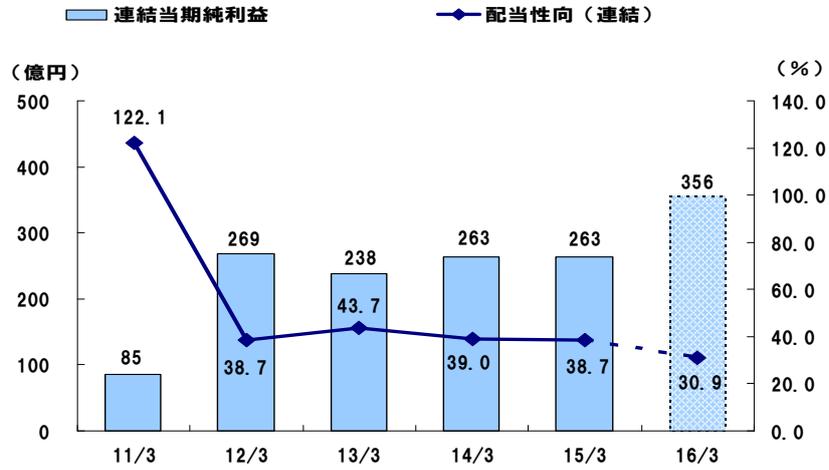
(※) 前提となる為替レート及び前年同期レートは参考値。決算では四半期平均レートを各現地四半期実績に適用している。

退職給付費用	+14.7 億円 (費用増)	マイナス金利の影響等
外形標準課税	+15.3 億円 (費用増)	税率上昇による影響等

## V. 配当の状況



### 配当性向の推移と予想





本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。

また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。

万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。